

空いた時間を有効活用



統計調査員を募集しています

統計は国や地域の社会経済の動きや国民生活の実態を知るために、欠くことのできない大切な指標です。

そのため、国勢調査をはじめとした様々な統計調査が行われ、それらの調査で活躍するのが「統計調査員」です。

町では、統計調査員として登録していただける方を、随時募集しています。

☆調査員のしごと

統計調査員は、統計調査が実施されるごとに任命され、調査票の配布、回収や回収した調査票の点検、整理などの業務に従事していただきます。

☆登録していただける方

1. 満20歳以上の方
2. 責任を持って調査事務を遂行できる方
3. 秘密の保護に関して責任の持てる方
4. 警察・税務・選挙業務に直接関係のない方
5. 暴力団員でない方、または暴力団員と密接な関わりがない方

☆報酬

統計調査ごとに定められた報酬が支払われます。調査の内容や受け持つ件数によって異なりますが、概ね2～6万円です。

☆仕事のご案内

調査実施の1～2か月前に電話で調査の従事を依頼します。

その際、都合が悪ければ断っていただけますので、空いた時間を有効に活用していただくことができます。

☆統計調査員の身分

統計調査員は、総務大臣や県知事から調査の都度任命される非常勤の公務員となり、守秘義務が課せられます。

なお、調査活動中に災害にあった場合は、公務災害補償が適用されます。

☆お問い合わせ

登録するにあたって、申請書を提出していただきます。詳細は、役場3階企画振興課へお問い合わせください。

◆問い合わせ先 企画振興課 企画人権担当 ☎0748-52-6552

感雑向綿

— 2019年6月 —

日野町長 藤澤 直広

スキー・モータールの伊藤みき選手が引退を表明されました。2005年12月末、当時、高校3年生の伊藤さんのトリノオリンピック初出場が決まり、直ちに激励会を元旦に開催したことを思い出します。2010年バンクーバーオリンピックも大活躍。日野公民館での応援会、現地応援団の派遣など町民の皆さんが町をあげて応援されました。日野町からオリンピック選手が出たことは、町の誇りであり町民の皆さんを大いに励ました。伊藤さんは、大会や練習で忙しい中でも時間をみつけ、役場や小学校などを訪れ、懇談や子供たちと交流いただきました。日野町のことをとても大切に思っていたいてきたことをうれしく思い感謝します。これからも日野町を応援して欲しいと思います。

オリンピックといえば1964年東京オリンピック、当時小学3年生でしたが、体操、重量挙げ、女子バレーの活躍は記憶に残っています。100

m走は、アメリカのヘイズが10秒0で優勝。当時は、レンガを材料としたエンジ色の土のアンツーカーのトラックで全天候トラックではありませんでした。4年後のメキシコオリンピックでは、君原健二選手がマラソンで銀メダルを獲得したことやアメリカの黒人選手が黒人差別に抗議して表彰台で握りこぶしをあげ顔をうつむけたことが記憶に残っています。

今年のNHK大河ドラマ「いだてん」ではオリンピックがテーマになっています。金栗四三や嘉納治五郎がマラソンやスポーツの普及に努力する姿に感銘します。いよいよ1年後は東京オリンピックです。日野町でも聖火リレーが行われます。そして、何よりもレスリングで活躍されている園田選手らが日本代表として出場され、活躍されることを期待し応援したいと思っています。オリンピック憲章には「人間の尊厳を保つことに重きを置く平和な社会の確立を奨励する」とあります。東京オリンピック大会が、スポーツの祭典となるとともに平和と国際交流の大切な場になることをのぞみたいと思います。

温故知新

日野歴史探訪

私たちの住む日野町には、52の大字があり、それぞれの地域が豊かな自然と歴史文化で彩られています。

温故知新では、町内各大字の歴史と代表的な文化財をシリーズで紹介していきます。

大字西大路

大字西大路は、西大路地区の最も西に位置し、古くは「仁正寺」と称しました。

古代から中世初期の頃は、日野谷一带に広がっていた日野牧の一部でした。16世紀の中頃、蒲生氏によって日野川河畔に中野城が築かれ、日野の中心地として栄えました。江戸時代には仁正寺藩市橋氏の陣屋が置かれ、引き続き城下として繁栄しました。文久2年(1862)、10代藩主長義のときに地名を「西大路」と改め、現在に至っています。

西大路には、蒲生賢秀の菩提寺である法雲寺、中世以来真宗寺院として寺勢を誇った興敬寺、市橋氏の菩提寺である清源寺をはじめとする寺院や、日野曳山のうち最大の規模を誇る西大路曳山、日野

中野城(日野城)

数ある大字西大路の文化財のうち、今回は中野城を紹介します。

日野城とも呼ばれる中野城は、16世紀の中頃、蒲生定秀によって築かれた城で、城名は当地が古く「中野」と称されていたことに由来します。蒲生氏がこの地を選んだのは、当時、この付近に日野市が発展しており、これを掌握するためであったと考えられています。定秀・賢秀・氏郷の三代の居城として利用されましたが、天正12年(1584)に氏郷が伊勢に国替となったため使われなくなりました。

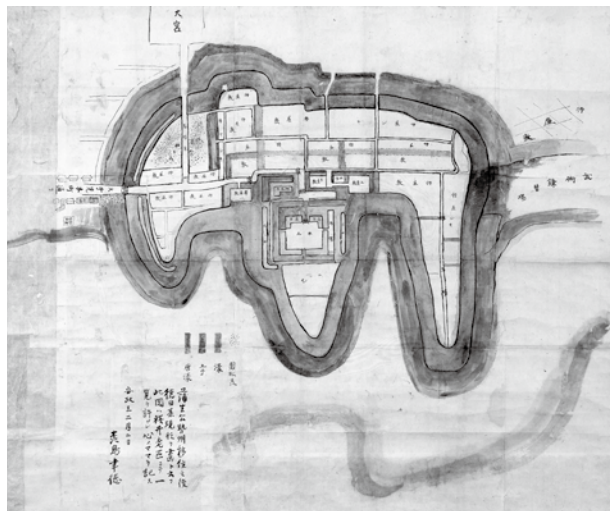
後世の開発によって現在は曲輪

や土塁、堀の一部などが残るのみとなっていますが、大正6年の測量図から当時の城の様子をうかがうことができます。城の中心部分は日野川の段丘上に約100メートル四方の規模で築かれており、周囲には高さ約9メートルの土塁と幅約20メートルの空堀がめぐらされた堅牢な城でした。

また、江戸時代の記録によると、築城には3年の歳月を要し、10万人の人力が動員されたと言います。城の北側には東西約800メートル、南北約600メートルに及ぶ家臣団居住地が設けられました。周囲には幅9メートルの水堀と高さ約3メートルの土塁が配されていたと伝わり、堀端町や水落町の地名はその名残と言われています。中野城の西側には、村井・大窪・

松尾にまたがる城下町「日野町」が整備され、湖東地方有数の都市として繁栄しました。

中野城が日本史上にその名を刻むことになったのが、天正10年6月2日、明智光秀が織田信長を討った本能寺の変でした。変の折、安土城の二の丸御番衆として留守居役をつとめていたのが蒲生賢秀で、事変の報を受けた賢秀は氏郷とともに信長の妻子を中野城へ避難させ、窮地を救いました(『信長公記』『氏郷記』)。この時、安土城に火をかけず、また金銀も持ち出さなかった賢秀の実直な振舞いは、のちに称賛の対象となったと伝えられています。



中野城古図(大字西大路蔵)